

令和6年度 第1回民芸館運営協議会会議録

1 日時

令和6年8月23日（金）午後2時00分～午後3時30分

2 開催場所

平戸橋いこいの広場多目的室

3 出席者

〔委員〕

佐藤 一信、水野 半次郎、釘宮 順子、近藤 善房、本多 謙二、内田 美穂子（以上6名）

欠席：小山 幾子

〔事務局〕

田鏡 志保、高橋 健太郎、都筑 正敏、森 友義、深田 七海（以上5名）

4 会議の経過

事務局から田鏡副部長のあいさつ、委嘱委員紹介、民芸館職員紹介、関係法令の概要について説明した。

委員の互選により、会長に佐藤委員を選出、会長が水野委員を職務代理者に指名した。その後、会長あいさつ、出席委員の報告（6名）を確認し、本会議が成立することを宣言。議事録署名人として、会長を含む2名（水野委員）を指名した。続いて、令和5年度の実績を報告した後、各委員からの意見を聴取した。

5 会議内容

事務局

（1） 展覧会の実績報告について

- ・資料2により、令和5年度の入館者・施設利用者及び展覧会の実績について説明

会長

ただいまの報告について、ご意見やご質問をお聞きしたい。

委員

集客数が目的ではないと思うが、情報源として TV ラジオが増えてきており、入館者数に影響していると思われる。できるだけそういう情報源を使って、豊田市民芸館あるいは民芸の森を PR することによって知っていただき、豊田市民芸館に来ていただけるとよい。

民芸の森の近松亭の修繕について、茶室自体は展示でしか使ってないが、できればお茶室としてイベント等で使えるようにするとより魅力が増すかなという思いがある。ご検討いただきたい。

会長

令和 5 年度の展覧会入館者数が 50,480 人とあるが、事務局の説明によると第 1、第 2、第 3 民芸館を合計した数を入館者数としているということは、全国人形展であれば展覧会は第 1、第 2 民芸館を使っているため、施設利用者数は 3,359 人ではなくて各館に 3,359 人入ったものを足したものをさらに足したものが 50,480 人ということか。

事務局

観覧者数 3,359 人というのは、純粋なチケットの売り上げ枚数から算出している。

施設利用者数の合計は第 1、第 2、第 3 民芸館にそれぞれ入った方の数を足している。

会長

かなり今までの平均値と比べても伸びていると思われるが、令和 5 年度の入館者数の大きな伸びをどのように分析しているのか。

事務局

おそらく 40 周年記念として開催した沖縄の美展と河井寛次郎展を強くアピールして展覧会を開催したことが 1 番大きいと思われる。

委員

また周年記念の年は予算規模が変わり、企画も少し大きくできるということはあるのか。

事務局

令和 5 年度は例年に比べて展覧会 1 本分ぐらいは予算が多めについたと思われる。

委員

去年は40周年で魅力的であったが、これから先も魅力的な展覧会を実施しても、中心から離れているため来るのが難しく、ほとんどの人は車で来館するが東京など県外からの来館者は難しい。もっと人は来てほしいと思うが、今後の集客見込みや目標値などはあるのか。

事務局

今後も運営協議会を行うにあたって、我々が目標としている観覧者数や施設の利用者数をあらかじめ計画して提示することで、それに対して実績や目標に対して何が足りなかったかと次はこういう風にしたいほうがいいよねというご意見をいただきやすくなると考えている。現状ではまだ明確な数字が用意できていないが、常に前年よりは多い人数を目指している。

委員

せっかくいい場所なので知っていただくといいかなと思っている。
民芸の森の手前の竹の枯れが気になるが、今後どのようにしていくのか。

事務局

業者と現地確認をして、様子を見るということになった。今すぐに倒れるとか通行に支障が出るとか、非常に危険な状態のものは早急に対応を検討する。

委員

以前から民芸館は場所がわかりにくいと言われるが、サイン整備をしたことで、わかりやすくなったのか、お客さんの反応はどうか。

事務局

当初は駅から施設の中までを整備しようと考えていたが、駅から県道への経路の道路上に看板を立てることは道路使用の申請や管理などかなりハードルが高いことがわかったため、その部分については整備を先送りにしている状況。施設の外の整備は難しかったため、まずは施設の中のサインを整備していくことになった。今までの木の看板も温かみがあってよかったが、台風などで外れたりしていたため、看板を綺麗にすると館のイメージも変わるだろうということから、まずはそういうところから変えていこうと内部の意見も聞きながら統一して整備した。

お客さんにとってアクセスがよくなったかという点について、民芸館の裏にある前田公園の大きな駐車場から民芸館へ降りてくるルートに看板をつけたため、わからないという声が少なくなったと

実感している。看板が美しくなったねという声は聞こえてくるので、トータルで見ると修繕してよかったと感じている。

委員

豊田市は色んな人が市内を回るのに足（交通手段）がない。公共交通機関を乗り継いでいくのも大変である。例えば民芸館と美術館や博物館などの文化施設を回るといったことをときどき企画するとよいのではないか。

会長

周遊や連携については、美術・博物部のなかで今後の課題としていただけるといい。

委員

名鉄の最寄り駅はどこか。

事務局

平戸橋駅。ただしタクシーでの来訪は猿投駅を案内することが多い。平戸橋駅からは徒歩での来訪が多い。

委員

平戸橋駅から民芸の森が近いが、県道があり看板などが奥まっけていて、施設がどこにあるかわからないという方がいる。駅から近いという利点を生かしきれていないと思う。

委員

駅からころうたの石碑があり、それらを生かせるようにウォーキングマップがある。これらが生かせるとよい。

会長

案内サインや植栽などがしっかり整備されている環境だと思われる。そういったところで魅力を築き、展示施設へ誘導していることから施設全体として環境が整っていると思う。植栽がしっかりされていることは本当にすごいことだと思う。単に建物だけを目当てに来るだけではなく、こんなに綺麗なところなのだと魅力になる。施設の見え目が荒れていたり、案内がわかりづらかったりすると、入口でつまづいてしまうため、しっかり整備されている状態を今後も維持していただきたい。

委員

文化財課から所管がかわった影響もあるのか。

事務局

元々文化財課で長く所管していたが、市内に 300 以上ある指定文化財を守って管理して活用していくという役割の所属が管理する施設群の一部が民芸館・民芸の森だった。現在は博物館の中に民芸館があるという状態になり、展示施設として表に出てより民芸館という姿が世の中に出てはっきりしていくようにしたいと思っている。博物館と民芸館、美術館の3館でしっかり連携をとりながら、施設間の回遊性もしっかり意識していきたいと考えており、さらにはそういった連携に加えて文化財なども結びつけていくということも考えているところで、美術・博物部というまとまりがある。

会長

河井寛次郎展は豊田市美術館でやってもおかしくない展覧会だと思う。そういうところで民芸館は美術館と同じではなく、相対的なキャラクター、性格みたいなものを持てるといい。色んな体験活動を重視してコレクションと一体化しているといった豊田市3施設のなかでの性格付けが回遊性を考えていく上で魅力になると思われる。

委員

豊田の民芸館は現代的なものもあって、博物館は作り続けていくということで、車のまちという最先端の機械的なものだけでなく、人間味がある文化的な場所があるといい。多種多様なものが混ざり合っているのが豊田市の特徴。こういった特徴を生かせるといい。

委員

ここにずっと住んでいるとこの良さがわからなくなる。しょっちゅう見ているものなので情報が外にどれだけ広がっているかわからないというところもある。平戸橋は勘八峡といってダムがあって桜があって観光客が来る土地柄であった。現在は平戸橋公園の中に民芸館や民芸の森といった文化的なものづくりの建物ができて、自分たちで手を動かしてものをつくれる施設があるのがいいなと思う。

事務局

(2) 事務局から連絡

会長

以上で協議事項を終了する。